

衝突安全性能評価の変更に関する検討事項について

ロードマップにおいて、衝突安全性能評価の変更を行うことが予定されていることから、その検討を以下のとおり行う。

(1) 平成30年度からのフルラップ衝突安全性能評価の変更

法規に基づく基準において、高齢者の安全性を考慮して助手席ダミーが平均的な体格の成人男性ダミーから小柄女性ダミーになることを踏まえた変更を自動車アセスメントにおいても行う。また、評価の閾値も基準値の変更等を踏まえて変更する（調査研究結果を踏まえ検討）。

これに併せて、オフセット衝突において後席に搭載する小柄女性ダミーの閾値も変更する。当該ダミーの脛部については、検定方法等が定まっていないことから、データ取得が出来ないため計測しない。

ダミーの変更を踏まえたシートポジションの確認について検討を行う。

事故実態を考慮し助手席搭載ダミーの変更を行うもので、衝突速度については変更しない。

(2) 平成30年度からの側面衝突安全性能評価の変更

車両の重量、寸法等の変化を踏まえたバリア変更、技術の進展を踏まえたダミーの変更及び前突と同様に高齢者の実態を踏まえた閾値変更を行うとともに、新たに後席の乗員保護性能評価の実施を検討する。（後席に搭載することが適当と考えられる小柄ダミーは、現存するものでは胸部傷害の評価が適切に行えない可能性が高いため、その効果を踏まえた判断が必要。）

ダミーの変更を踏まえたシートポジションの確認について検討を行う。

衝突速度については交通事故実態を踏まえて変更しないことが適当と考えられる。ただし、調査研究の結果を踏まえ、今回の評価の条件が厳しすぎる等により適切な評価ができないと考えられる場合は、衝突速度についても検討する。

(3) 確認試験の実施

今回の評価の条件で適切に試験を実施し、評価することができるかを調査研究における試験によって確認を行う。

調査研究で使用する車両は、整理の結果以下を選定した。

ホンダ N—WGN

なお、側面衝突安全性能評価の変更については、条件が厳しすぎる場合に備えて、50km/hでの確認試験も合わせて実施する。

(4) その他

今回の評価方法の変更による被害軽減効果（基準と切り分けた効果を社会損失額ベースで考慮することを検討）を踏まえた総合評価のあり方及び平成30年度以降に必要なと考えられる衝突安全性能評価について、調査研究で検討を行っている。調査研究の結果を踏まえてロードマップに反映させる必要がある。